

# 令和7年度 富来小学校教育目標及び教育方針（経営ビジョン）

## I 学校教育目標 「ふるさとに学び、心豊かに、たくましく生きる子どもの育成」

### (1) めざす学校像 「保護者や地域の期待に応え、子どもが安心して学べる学校」

- ①子どもたちの笑顔が溢れ、「大好きな富来小学校」と誇れる学校
- ②子どもたちが、楽しく主体的に安心して学べる学校
- ③保護者、地域と連携し、信頼される学校

### (2) めざす児童像 「笑顔いっぱい」の富来っ子

- ① 進んで学ぶ子 → 自ら考え、主体的に学び、行動する子
- ② 規範意識のある子 → 相手の立場や考えを理解し、集団で協働する子
- ③ たくましい子 → 健康な体と心を持ち、最後までやり抜く子
- ④ しっかり伝える子 → 場に応じて自分の思いを素直に表現しようとする子

かしこく なかよく たくましく

### (3) めざす教師像 「自覚と使命感のあるプロ教師」

- ① 一人一人を大切にし、児童、保護者に信頼される教職員
- ② 教育目標の具現化に向けて組織的に取り組む教職員
- ③ 自らの指導力向上を図り、互いに高め合い協力し合う教職員
- ④ 地域の方と連携し、地域を愛し、地域と共に歩む教職

## II 経営方針

「知・徳・体」の調和の取れた人間性豊かな児童の育成をめざし、家庭・地域との連携を図りながら信頼される学校づくりに努める。

- (1) 学校経営計画のもと、全教職員がベクトルを合わせ、よりよい学校づくりに努める。
- (2) 全教育活動を通して、知徳体のバランスの取れた児童の育成に努める。
- (3) 一人一人の児童を理解し、大切にしていける教育の実践に努め、集団としての高まりを図る。
- (4) 郷土の文化や伝統を大切にし、世界に目を向ける子の育成に努める。
- (5) 開かれた学校づくり、保護者や地域に信頼される学校づくりを推進する。

## III 本年度の指導の重点項目

- (1) 「志賀町学校教育モデル」の ver. 2 の実践 ～富来小中で9年間をスパンとした学びの推進～
- (2) G I G A スクール構想第2期に向けた I C T 環境整備と学びの推進
- (3) 教育相談と特別支援体制の充実（いじめ・不登校・発達障害等への対応）
- (4) 志賀町復興計画プロジェクトによる学びの推進
- (5) 教職員の働き方改革の推進

- (6) 組織的な学校運営
- (7) 確かな学力の育成（知）
- (8) 豊かな心の育成（徳）
- (9) 健やかな体の育成（体）
- (10) 家庭・地域との連携

☆「関わる・気づく・つなぐ」をキーワードに前向きで持続的な学校風土を築く

- ①互いを尊重し、「関わる」組織をつくる
- ②感覚を研ぎ澄まし、小さな変化にも「気づく」組織をつくる
- ③つながりを意識し、「つなぐ」組織をつくる

#### IV 具体的方策

##### (1) 「志賀町学校教育モデル」の ver. 2 の実践

- ① 小中連携部会を中心に、富来小中での9年間をスパンとした教育活動を積極的に推進する。
- ② 学習者主体の「整理・分析のある委ねる授業」を追究し、単元内で児童に大きく委ねる学びを行う。
- ③ 日常の外国語教育、全学年でのプログラミング的思考の育成を図る。
- ④ キャリアパスポートを活用するとともに、日々の活動の中にキャリア教育を見出し価値づける。
- ⑤ 地域に根ざした学習活動を推進するとともに、学年に応じた体験活動を計画的に行う。

##### (2) G I G Aスクール構想第2期に向けたICT環境整備と学びの推進

- ① 児童・教職員ともに、新しいタブレット端末のスキルアップに取り組み、協働的な学びを促進する。
- ② 家庭学習でのタブレット端末の活用をさらに推進する。

##### (3) 教育相談と特別支援体制の充実（いじめ・不登校・発達障害等への対応）

- ① 平時からいじめ重大事態に備え、時機を逃さず各種校内委員会を開催し、組織的初期対応を行う。
- ② 定期的な児童理解の会で児童の変化を共有し、役割分担を明確にする。
- ③ 相談者とつながる視点と方策を身につけるSOS教育の実施および医療や福祉等の関係機関と積極的に連携する。

##### (4) 志賀町復興計画プロジェクトによる学びの推進

- ① 小中一貫教育学校の教育課程につながっていく活動を意識し、実践する。
- ② 防災教育を適切に行うとともに、防災対応マニュアルを随時見直し、災害発生時の児童の具体的行動や保護者への連絡体制や保護者の対応を明確にする。

##### (5) 教職員の働き方改革の推進

- ① 校務の平準化を図るためできることは協力し、見通しを持って業務にあたる。
- ② 時間外勤務時間1か月45時間以内を持続できる職場環境を維持、進展させる。
- ③ 校務支援システムの有効活用や業務のデジタル化を推進する。

##### (6) 組織的な学校運営

- ① 教職員が主体性をもって役割を担い、各校務でPDCAサイクルを回していく。
- ② 複式学級の円滑な運営にあたり、全員が複式学級の授業や学級経営に関して知識を増やす。
- ③ 校舎の改修をふまえながら、小中で校内施設運用に当たって綿密に連絡調整を行う。

##### (7) 確かな学力の育成（知）

- ① 学校研究と学力向上ロードマップを連動させ、主体的に学ぶ子の育成を目指し、学力を高めていく。
- ② スマートスクールネットの問題を積極的に活用し、基礎学力および活用力の向上を図る。

##### (8) 豊かな心の育成（徳）

- ① 全職員が一人一人の児童を大切にしていくなかで、生徒指導の4視点を生かした積極的な指導をする。
- ② 学習指導と生徒指導の一体化を意識し、安全で安心できる居場所としての学級風土を醸成する。
- ③ 縦割り班活動をさらに充実し、友だちのよいところを積極的に認め、自己有用感を高める。

##### (9) 健やかな体の育成（体）

- ① 体力アップ1校1プランを実践し、年間を通してスポチャレに取り組む。
- ② 健康な体づくりの保健指導を行い、けがの防止やSNSを含めた基本的生活習慣の重要性を指導する。

##### (10) 家庭、地域との連携

- ① 小中で協力し、地域の多様な年代・各種団体との積極的な交流を推進する。
- ② メディアコントロールを推進し、メディアと適切に接する生活ができるようにする。
- ③ 外部評価を教育活動に反映させ、改善に結び付ける。
- ③ 学校教育活動を家庭や地域に積極的に公開し、情報発信に努める。